



改修工事に伴う第Ⅱ期個人長期貸出について

改修工事に伴う図書館閉鎖に先立ち、第Ⅱ期個人長期貸出を実施します。全館閉鎖後は仮設図書館に移動するものを除き利用できなくなりますので、必要な図書は貸出を受けておいてください。今回の対象は旧館の資料になります。詳細は館内掲示やHPの「本館工事関連情報」をご確認ください。

- 貸出手続き期間
7/31(火) ~ 8/10(金)
- 貸出対象資料
貸出可能図書のうち、ピンク色のシールの無いもの。
- 対象・貸出冊数(第Ⅰ期との合計)
 - ・ 教員、名誉教授、大学院生、卒業年次生：20冊
 - ・ 学部学生、教員以外の研究者、職員：10冊
 - ・ 学外者：不可(通常通りの貸出のみ)
- 返却期限
平成25年4月25日
(卒業年次生は平成25年2月末日)

※全館休館前の最後の機会です※
※借りもらしの無いように気をつけてください※

CONTENTS

- 第二期長期貸出のお知らせ
- 学生選書ツアーの報告
- お薦め図書
○水上勉『金閣炎上』
- つぶやきライム
○第28回/島根大学に赴任して
- ライムのぼんやりトーク

学生選書ツアーの報告

6月13日に学生選書ツアーが開催されました。今回は8名の学生が参加し、今井書店グループセンター店で図書館に置いて欲しい本・他の学生に読んでもらいたい本などを実際に手にとって選びました。

選ばれた図書はブックコンパスで紹介します。同じ学生が選んだ本ということで、ユニークなものも多いです。ぜひ読んでみてください！



■自分の興味のある分野の本が図書館にはあまりなかったので、新しく入れる事ができて良かった。

■専門でない学生の方向けにあまり難しくなく読み易い本を選んだので、ぜひ手に取ってみてください。

附属図書館本館 改修工事スケジュール

8月11日～9月17日の間は仮設図書館へ本の引越しをするため、**全館休館**になります。詳細は館内掲示やHPの「本館工事関連情報」をチェック！

	仮設図書館	新館	旧館	
			開館(8/10まで)	7月
		閉館中		8月
			閉館	9月
	準備中			
	5/18開館			



注/工事や作業状況により予定がずれることがあります。

工事中は騒音で
ご迷惑をお掛けしますが、
ご了承願います。



お薦め図書

このコーナーは毎回様々な人が選んだお薦めの本を紹介するコーナーです。
今回は法文学部法経学科4回生の図書館コンシェルジュ推薦図書です。

金閣炎上 水上勉著

(新潮現代文学 45 巻『雁の寺；金閣炎上』に収録) [NDC:918.6/Sh61/45 本館・1F 閲覧室]

夏が近づくとつれ蒸し暑くなってきました。私は京都が大好きで夏の京都も度々訪れましたが、山々に囲まれた京都の暑さは格別なものです。

京都に行かれた方の多くは、金閣寺に立ち寄られたことがあると思います。しかし金閣は国宝でも重要文化財でもありません。1950年7月2日、同寺徒弟で当時21歳の大学生だった林養賢により放火・全焼し再建されたものだからです。

なぜ彼は事件を起こしたのか。水上勉氏が強い関心を持ったのは両者の間に多少ではない縁があったからです。林は京都府舞鶴市の小さな寺、水上氏は福井県おおい町の貧家に生まれます。時期は違いますが、偶然にも二人は京都市内の同じ宗派の寺に勤める身となります。氏は寺を出奔し様々な職業を経たのち作家になりますが、舞鶴で臨時教員をしていた時、偶然知り合いと一緒にいた林養賢に出会い立ち話をしています。氏はおとなしそうなその少年が6年後、金閣に放火

をすることは夢にも思わなかったそうです。

水上氏は本書の中で林の出自から犯行後の証言・公判内容に到るまで調べています。その結果彼が重度の吃音に劣等感を持っていたこと、母親の極度な期待を疎ましく思っていたこと、自分の将来を悲観していたこと、そして禅寺でありながら観光収入によって生計を立て、僧侶よりも事務方が幅を利かせる寺の不条理さ…などが彼をさいなみ、犯行に至らしめたと考察しています。

身体的なコンプレックス、周囲の期待、将来への不安、そして自分を取り巻く社会の矛盾や不合理。こういったことは少なからず私たちも感じていることではないでしょうか。

ひとりの人間としての林養賢・そして彼が起こした金閣放火事件を描いたこの作品は、悩みを抱えた私たちや現代社会について考える際のヒントを与えてくれるのではないかと思います。
(kf)

つぶやきライム

～図書館職員メッセージリレー～

第28回 島根大学に赴任して

私は、この4月に長崎大学から異動により、島根大学に勤務することとなりました。山陰地方は観光でも訪れたことが無く、本当に初めて訪れた地です。私の帰省先である熊本から松江までは、移動に7時間あまりを要し、東京よりも時間的には遠い所です。

しかし、熊本と松江は、ラフカディオハーン、城下町、文人大名の存在（細川幽斉）など、共通した要素を持っています。また、私の故郷に近い柳川という町は、掘割が発達した水の都であり、松江と同じく観光川下りが見られます。こういうこともあり、この町に、すぐに親しみと懐かしさを感じていました。また、歴史と文化を大切にする優しい人柄の方々ともふれあうことができ、ここに赴任できた幸運を感じています。

ところで、ハーンは松江をこよなく愛した一方、熊本はお気に召す土地ではなかったようです。私は熊本を愛する者として、腑に落ちないものがあつたのですが、松江に赴任して、彼の心境も理解できるような気がしてきました。今でも神楽や神話を大事にし、きめ細やかな心遣いのある松江の方々に比べると、九州熊本の土地柄は、一直線で野卑なものに見えたのでしょうか。私にとって山陰地方はこれまで、遠くて「裏日本」という言葉が表すような、あまり良いイメージが無かったのですが、実際に住んでみて、日本の古き良き心を残す豊かさというものを実感しています。島根大学に学ぶために遠くから移り住んだ学生の方々も、この地の豊かさを感じているのでは無いでしょうか？

先日、奥谷宿舎を見学に訪れ、長崎大学で献身的に原爆後の救済活動にあられた永井隆博士の松江中学時代のエピソードを読み、あらためてこの地との縁というものを感じました。こちらから九州地方は地理的、交通的に非常に遠い地ではありますが、島根と九州のつながりに興味を持っていただけたらと願います。

(taka)

ライムのぼんやりトーク



けんさくくん

7月は試験の時期だね。レポートも書かないといけないし、図書館で勉強しなくちゃ。



みいなちゃん

本当だね。でも新館が開鎖されちゃったから、勉強する人たちが旧館に集まって混雑するかもしれないよ。



ライム博士

迷惑をかけるけど、席を譲り合って勉強してね。これは普段から気をつけてほしいな。それに試験が近付くと本棚も乱れていることが多いよ。



けんさくくん

そういえば僕がよく利用する400番台の本棚は、勉強に利用する人が多いからか、グチャグチャになってることもあんなあ…。



ライム博士

本棚が乱れていると資料を探すのに苦労するし、気持ちよく利用できないよね。みんなの図書館だから、施設や資料の利用には気をつけようね。